

# 先週の回答



声。

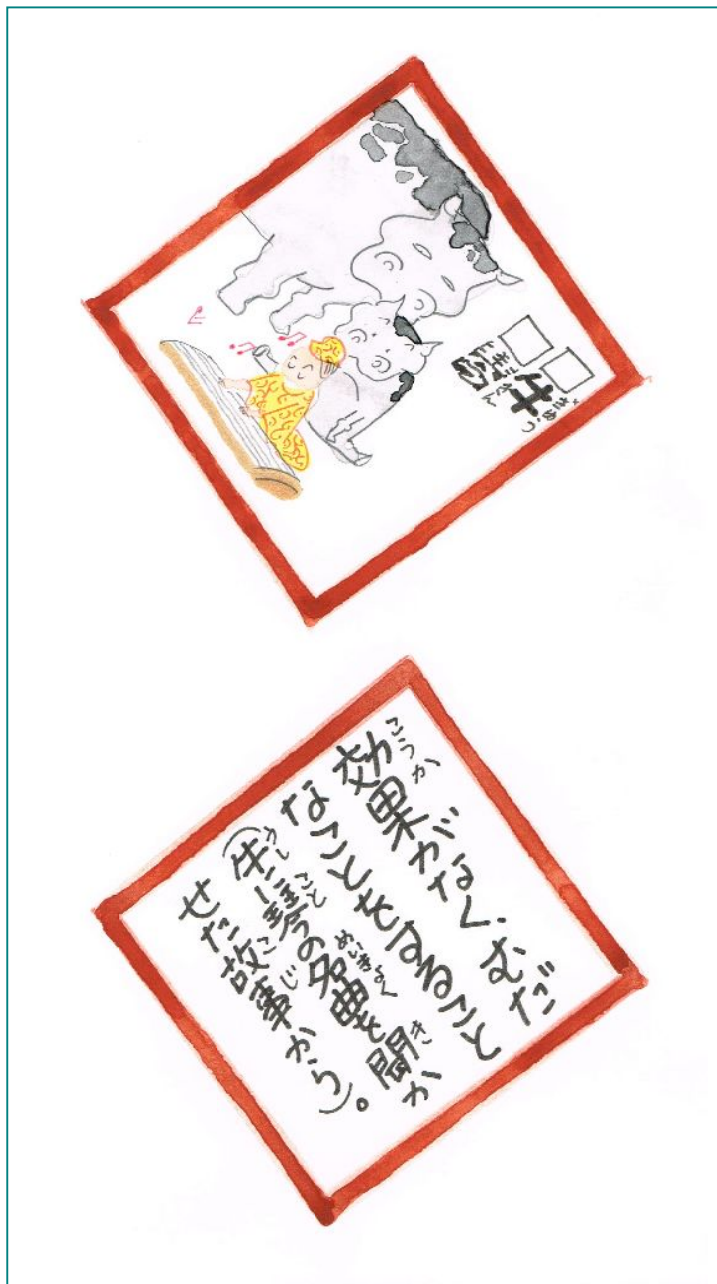
夢の途中で ユメからさめて、  
夢のつづきを ユメでみる

「ここはどこだ？」  
 「目が覚めましたか？」  
 「おまえは本当に私の子か？」  
 「ちよつと失礼(と、父の額に手を当てるボク)、熱はないようです」  
 「私が歩いていると道端で物乞いをしている小さな子がいた。あまりにあわれなので家に連れ帰ったのが、おまえだ」  
 「生まれたときから、ぼくはあなたの息子です」  
 「すると、私は国王ではないのか。うーん、まさに胡蝶の夢か・・・」  
 「何ですか？その何とかの夢って」

「夢と現実との区別が判然としないことだ。話が長くなるが聞きなさい。中国の戦国時代、莊周という人が自分が蝶になった夢をみたが、覚めたあとも自分が夢で蝶になったのか、蝶が夢をみて今の自分になっているのか疑ったという故事から、『人生なんて胡蝶之夢のようなものかもしれない』と、人の一生のはかなさを嘆いたのだ。話が長くなってしまったが」  
 「昼寝の夢の中で王様になったの？パバ」  
 「ところで、おまえのそばにいた意地の悪そうな女はどうした？あれは完全に夢の中の女だろうな」  
 「それは、あたしのこと？」と、ママの



# 今週の問題



□の中に漢字を埋めて  
四字熟語を完成させてください。